＜ 2022 年 7 月 25 日号 内航海運新聞掲載 ＞

内航船の日

「海から届ける写真展」開催中

３年ぶり 内航海運のＰＲに貢献

内航海運新聞（令和４年７月 25 日号）の記事を紹介いたします。 以下転載

既報のとおり、今年で7年目を迎える7月 15 日の「内航船の日」を記念したＰＲイベント「海から届ける写真展」が、全日本内航船員の会の主催により東京スカイツリーのふもとにある下町の銭湯「大黒湯」のロビーで開催中だ。

コロナ禍の影響で３年ぶりの開催となったが、内航船員から寄せられた写真作品が内航海運業界のＰＲに大きく貢献している。

「内航船の日」とは、内航船が好きで、船員たちと交流してきた陸上の一般市民が、「ナナ・イチ・ゴ」→「ナイコー」であることから、 7月 15 日を「内航船の日」にしようと呼びかけ、 ２０１５年に日本記念日協会によって認定されたもの。今年も記念日当日には、 ＳＮＳ上で「＃内航船の日」が溢れ、内航船やそこに乗り込む船員たちを盛り上げた。

３年ぶり５回目となる「海から届ける写真展」では、全国で働く現役の内航船員から寄せられた約２００点の写真の中から厳選された 18 点を展示。船上からしか見ることのできない景色、船員の作業風景など、陸にいても海を感じることのできる作品ばかり。また、内航海運を紹介するパネルなども展示している。

会場は地元住民に愛される下町の銭湯「大黒湯」。内航海運と特別に縁が深いと

いうわけではない。だからこそ、「老若男女、様々な人が訪れるが、たくさんの人に『初めて内航船という言葉を知った』とよろこんでもらえる」（全日本内航船員の会・松見準事務局長）。

松見事務局長が写真展で待機していると、休憩中の入浴客から質問攻めにあうこともあるという。ある夫婦は写真展を通じて内航船に興味を持ち、松見事務局長と質疑応答を重ねるうちに「内航船の重要性に気づいてくれ、『自分は船には乗れないけれど、船員の人たちを応援している』と言ってくれた。内航海運が社会から応援され、その中で発展できる産業になっていくためには、１人でも多くの人に知ってもらうことが大切だ」と強調する。

現在は一個人として開催している写真展だが、一般市民が普段目にすることのない内航海運業界にとって、こうしたＰＲの場は今後ますます重要性を増してくるだろう。松見事務局長は、「将来的には、業界団体など関係する方々と連携し、全国で開催していきたいと願っている。関係者の皆様には、是非ともご理解、ご協力をお願いしたい」と呼びかけている。

同展の開催は7月31日まで（火曜日定休）。「大黒湯」の所在地は東京都墨田区横川３―12―14。東京メトロ半蔵門線、東武伊勢崎線、都営浅草線、京成押上線「押上駅Ｂ２出口」より徒歩６分。東京スカイツリーより徒歩10分。入浴料は大人５００円、中学生４００円、小学生２００円、幼児１００円。